

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：修繕公園施設数	指標の求め方：修繕公園施設数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：計画内における修繕公園施設進捗率	指標の求め方：修繕公園施設延べ数 / 計画施設数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 3	実績値 3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 -	実績値 -	10		30	40	60		70	80	90	100		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない										
	総合評価				問題がある										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 3公園の3基の遊具について修繕を行ったが、今後、点検の結果に基づき、状況に応じて次年度以降、予算要求していききたい。	自己分析： 4公園の4基の遊具について修繕を行い、3公園3基の遊具について撤去を行ったが、遊具使用中に事故が起きてしまったことから、再発防止のため春先の公園開放に向けた遊具の目視点検をこれまで以上にしっかりと行っていききたい。合わせて遊具の修繕についても時期をなるべく早めて発注していききたい。今後も点検の結果に基づき、状況に応じて次年度以降、予算要求していききたい。	自己分析：	判断理由： 公園施設長寿命化計画を基本とするが、前年の点検結果を踏まえ予算要求を行い、より安全な施設の利用が出来るよう事業を進めているが、令和4年度に遊具使用中に事故があったことから「問題がある」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 令和5年度に公園施設長寿命化計画の見直しを行っているが、施設数も多く、老朽化も進んでおり、維持管理には、費用が増大する傾向である。利用状況やニーズも踏まえ施設の在り方について検討が必要であることから「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：協力団体の数	指標の求め方：実施団体の数 (予定箇所数：全 11 箇所)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：協力団体の数	指標の求め方：実施団体の数 (協力団体が増えることで地域コミュニティの活性化が図られ、協働の理解が深まった成果と捉えられることから活動指標と同じ指標とした)

			第 1 次実施 3 年計画				第 2 次実施 3 年計画				第 3 次実施 4 年計画				第 7 期 総合計画 合計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 年次 合計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 年次 合計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/団体)	計画値 実績値	11 11	11 10	11		11	11	11		11	11	11	11	
	成果指標 1 (単位/団体)	計画値 実績値	11 11	11 10	11		11	11	11		11	11	11	11	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					普通である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 公園の草刈り作業を町内会単位で行って貰っているところ、町内における活動人員の確保や草刈り面積の見直し等課題があり、今後、町内会に協力要請する中で改善が必要と考える。	自己分析： 昨年の協力団体が11団体だったのに対し人員不足により1団体減ってしまっただけで、対策として、例えば協力団体で行う草刈面積を縮小し、その分公園の維持管理委託の草刈面積を増やすことで協力団体の負担を軽減するといった作業負担を減らすような方法を考え、人手不足で協力を断念せざるを得ない町内会に提案するといったことも視野に入れた改善が必要と考える。	自己分析：	判断理由： 令和4年度に協力団体が人員不足により1町内減ってしまったが、それでも10町内会の方々が公園の草刈を実施して下さったことを踏まえ「普通である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 「町内会による街区公園管理事業」については、町内会の協力を得て街区公園の管理を行うことで、市民と協働のまちづくりの意識を高めてもらうとともに、地域住民に、親しまれている公園を目指していくことは市にとっても経費削減に繋がり、市民にとっても公園に親しみを持てるため引き続き実施していくことから「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：工事实施率	指標の求め方：実施個所/予定箇所
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：整備率	指標の求め方：整備面積/整備計画期間の整備

	指標	計画値	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施4カ年 合計
事業 事業 評価	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	0	0		100	100	100		100	100	100	100		
		実績値	100	0												
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	0	0	0		0	16	33		50	66	83	100		
		実績値	100	0												
	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 令和2年に、国は、市の要望に基づき砂川遊水地河川敷を中心とした砂川オアシスパーク地区に対して、河川法等の規定による都市・地域再生等利用区域の指定を行ない、「砂川地区かわまちづくり計画」に基づき、官民協働により観光資源としての利活用を推進していくこととなり、開発局滝川河川事務所が、遊水地の中核施設である遊水地管理棟駐車場拡張整備の実施に併せて、都市公園オアシスパークふれあい広場に、公園利用者のための駐車場整備を行い、利活用の推進が図られた。	自己分析： 令和4年度は事業を実施していないことから、公園整備事業としての評価には繋がらないが、公園施設長寿命化計画に基づき、定期点検等を行い適正な管理に努め、必要に応じて整備を進めていく。	自己分析： 令和5年度に策定する公園施設長寿命化修繕計画の修繕年次計画から、公園毎のライフサイクルコストを算出した上で、地域のニーズを踏まえた都市公園の新たな利活用や集約化に対応するため、市内の都市公園の機能や配置の再編に向けて、令和4年3月に策定した「砂川市緑の基本計画」を改訂し、その後、機能更新工事やバリアフリー化工事等の計画期間を概ね5年以内とする都市公園ストック再編事業に取り組んでいくことを想定し、庁内において未利用地対策等が検討され、基本的な考えが整理された時点から、計画の改訂と整備事業を進めていくことが最善と判断したことから、着手の時期の変更となるが、準備は進めていくことから、総合評価は「普通である」と判断した。	判断理由： 令和5年度に策定する公園施設長寿命化修繕計画の修繕年次計画から、公園毎のライフサイクルコストを算出した上で、地域のニーズを踏まえた都市公園の新たな利活用や集約化に対応するため、市内の都市公園の機能や配置の再編に向けて、令和4年3月に策定した「砂川市緑の基本計画」を改訂し、その後、機能更新工事やバリアフリー化工事等の計画期間を概ね5年以内とする都市公園ストック再編事業に取り組んでいくことを想定し、庁内において未利用地対策等が検討され、基本的な考えが整理された時点から、計画の改訂と整備事業を進めていくことが最善と判断したことから、着手の時期の変更となるが、準備は進めていくことから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 今後の都市公園のあり方の検討について、令和5年度を事務事業の予定年度としていたが、令和5年度に中学校の統合、令和8年度には義務教育学校の開校などに伴い、将来的に地域生活拠点区域は南地区への移行が想定されること、また、学校跡地等の利用についても検討を進める時期に差し掛かってきていることもあり、土地利用分布、住宅整備状況、戸数の推移、空き家状況、市街地の未利用地の割合の増減等を踏まえた上で、じっくりと公園機能の再編・集約による都市公園の構築に向けた検討を進めていかなければならないことから、令和4年3月に策定した「砂川市緑の基本計画」を、都市公園ストック再編事業を実施するために、具体的な都市公園の再編を含めた計画へと改訂する時期を見直すこととなるが、整備に向けた取り組みは継続していくこととする。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：花の苗の配付数量	指標の求め方：配付株数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：植樹柵植栽面積の規模の確保	指標の求め方：各年度面積/令和元年面積

	指標	計画値	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
事業 事業 評価	活動指標 1 (単位/株)	計画値	10,000	10,000	10,000		10,000	10,000	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	
		実績値	10,000	10,000											
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	124	118	118		114	114	110		110	106	106	102	
		実績値	123	131											
	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている									
	総合評価					普通である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 花の苗配付事業は、参加団体の構成人数が減少傾向にある中、周辺施設への植栽は確実に履行されており、植樹柵植栽事業の参加団体数は大きな増減はないが、植樹柵の面積は堅調に増加していることから、緑化意識の高揚は図られ、美しい景観が形成されています。	自己分析： 花の苗配付事業は、参加団体の構成人数が減少傾向にある中、周辺施設への植栽は確実に履行されており、植樹柵植栽事業は、平成13年事業開始当初に6団体(約400㎡)で実施されたが、令和4年度は19団体(約3,200㎡)の申請があり、面積は増加していることから、美しい街並みの広がるまちづくりは推進されている。	自己分析：	判断理由： 花の苗配付事業は、令和8年に小学校統合を控えていることから、参画施設数は減少することとなり、配付株数の逡減が見込まれるが、令和7年度までは現状維持に努めることとし、植樹柵植栽事業は、高齢化による参画休止団体があり、減少することが想定されるが、新規参画団体もあることから、団体数については横ばいであり、植樹柵植栽面積は増加していることから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
	今後の方向性					現状のまま継続									
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)		R5： 本事業の目的は緑化意識の高揚と地域コミュニケーションの増進であり、行政と市民との協働事業として非常に意義深いものであることから、団体との情報共有を図っていききたい。 また、直近3年度の実績は微増であるが、各団体において新規参加者の確保に苦慮していることから、緑化運動の継続及び維持負担軽減を図るため、降雨、降雪等による客土の流失が顕著な植樹柵については、購入土の支出を抑えるため、管理が容易なプランターでの栽培を試みるなど、負担感を低減させたり、地域の事情に応じるべく、事務局として現状把握に努めていきたい。				R8：				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	緑化推進事業（緑と花の祭典）				事業期間	昭和50年度 ～ 年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	5-5-2	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	所管課係	土木課都市計画係	
目的 (何のために実施するのか)	自然を守り、生活環境の中の緑を生み育て、緑との交流を深め、緑あふれる公園都市をつくる							手段 (どのような方法で実現するのか)	市民会議に祭典事業費として交付金を交付する。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	緑あふれる公園都市推進市民会議（市民13団体）。							成果 (どのような効果が得られるのか)	市民が祭典を楽しみながら緑との交流を深め、まち全体での花や木の植栽を促進する。						
事業開始時の状況・これまでの経緯	緑豊かな公園都市を市民総ぐるみで推進するため、昭和49年8月市内20団体（現在13団体）で『緑あふれる公園都市推進市民会議』を発足し、自らが主催団体となり、健康で明るく住み良い豊かな郷土を築くため、「緑あふれる公園都市をつくろう」をテーマスローガンに『緑と花の祭典』を実施している。緑化推進の普及、花の苗の無料配布、バラエティショーなど、多くの行事を取り組み、長い北国の冬から解放され、緑とのふれあいを求めて多くの市民が参加する一大イベントに定着した。														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施4カ年 合計
投入 された 事業 費 の 推 移	国費	計画額				0				0				0	0
		予算計上額				0				0				0	0
		実績額				0				0				0	0
	道費	計画額				0				0				0	0
		予算計上額				0				0				0	0
		実績額				0				0				0	0
	地方債	計画額				0				0				0	0
		予算計上額				0				0				0	0
		実績額				0				0				0	0
	その他	計画額				0				0				0	0
		予算計上額				0				0				0	0
		実績額				0				0				0	0
一般財源	計画額	2,820,000	2,820,000	2,820,000	8,460,000	3,320,000	2,820,000	2,820,000	8,960,000	2,820,000	2,820,000	2,820,000	2,820,000	11,280,000	28,700,000
	予算計上額	2,820,000	2,820,000	2,820,000	8,460,000				0				0	8,460,000	
	実績額	0	0	0	0				0				0	0	
事業費合計	計画額	2,820,000	2,820,000	2,820,000	8,460,000	3,320,000	2,820,000	2,820,000	8,960,000	2,820,000	2,820,000	2,820,000	2,820,000	11,280,000	28,700,000
	予算計上額	2,820,000	2,820,000	2,820,000	8,460,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,460,000
	実績額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業費予算の内容		負担金補助及び交付金2,820千円	負担金補助及び交付金2,820千円	負担金補助及び交付金2,820千円											
	前年度予算との比較 (増減理由)	前年度同額	前年度同額	前年度同額											
	実績との比較 (増減理由)	開催を中止したことによる減	開催を中止したことによる減 (予算額は3月補正で皆減)												

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：市からの交付率	指標の求め方：交付金額/予算金額
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：開催回数	指標の求め方：実績

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	100	100		100	100	100		100	100	100	100	
		実績値	0	0											
指標	成果指標 1 (単位/回)	計画値	1	1	1		1	1	1		1	1	1	1	
		実績値	0	0											
事業 評価 内容	事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
		総合評価				普通である									
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症のまん延がつづき、多数の人が接触する可能性のある大規模イベントが開催できる社会情勢にないことから、令和3年度の開催を中止としたことについて、適切な判断であった。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、多数の人が接触し、感染する可能性が極めて高い大規模イベントを開催する社会情勢にはなかったことから、令和4年度の開催中止は適切な判断であった。	自己分析：	判断理由： 第49回緑と花の祭典は令和元年度以来4年ぶりの開催となり、雨天のため地域交流センター「ゆう」ステージにおいて、キャラクターショー、よさこい踊り、バラエティショー等が行われた。また、会場では花の苗の無料配布、地場産品の出店、JC広場等が催され、当日の来場者数は約2,000人となり、大きなトラブルもなく、盛会のうちのうちに終了したことから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 春の砂川市の行事として市内外に定着しており、令和6年度は節目となる第50回の開催を控えているが、主催者の市民会議における現在の課題として、活動内容が緑化推進から観光振興へと移行していること、会議構成団体内の高齢化によるスタッフ及び参加団体の減少傾向が顕著であることから、市民会議の存続の問題も抱えており、今後の市民会議の運営体制を注視しつつ、交付金による適切な支援を継続していきたい。		R8：				R10：								